

姫路赤十字病院 内科専門研修プログラム 概要

【病院の概要】

姫路赤十字病院は、兵庫県はりま姫路診療圏に位置して、33診療科560床を有する地域中核病院です。

当院は、DPC 特定病院群（旧Ⅱ群、全国で155市中病院）と認定され、①診療密度、②医師研修の実施、③高度な医療技術の実施、④重症患者に対する診療の実施などが、高く評価されました。

当院の実績は、入院患者数17,218人/年、入院稼働率94.6%、救急患者数11,968人/年、救急搬送4,707件/年、手術数8,079件/年、そのうち全身麻酔数3,855件/年と、豊富な症例数を誇っています。

医師総数181名、30歳代前半（卒後10年）の医師80名と若い年齢層も多く、また、女性医師が4分の1在籍し、働きやすい環境を整備しています。

【内科の概要】

内科系診療科は、消化器、肝臓、血液、呼吸器、腎臓、膠原病、糖尿病、循環器、総合内科9領域の専門内科から成り立っています。内科指導医24名、うち総合内科専門医15名が所属し、入院患者数5,498人/年、外来患者数315人/日（76,364人/年）で、病床数162床、稼働率120%と豊富な症例があります。

それぞれの専門内科には、複数のサブスペシャリティ専門医を有し、サブスペシャリティ教育施設でもあります。

【内科専門研修プログラムの概要】

多岐にわたる専門内科で幅広く研修できるうえに、それぞれのサブスペシャリティ専門医による質の高い指導を受けることができます。また、専攻医のキャリアプランに沿った研修プログラムを設定し、専攻医のニーズに合わせて、柔軟に対応致します。

【募集定員】6名

【研修計画】

サブスペシャリティ開始時期に応じたタイプ分けを用意しています。

- ①内科標準研修タイプ：特定臓器、診療科に偏らず、満遍なく、内科全般を研修する
- ②サブスペシャリティ重点研修タイプ：サブスペシャリティの研修に比重を置く期間を設ける

*サブスペシャリティ領域：消化器、循環器、呼吸器、血液、腎臓、肝臓、糖尿病、内分泌、リウマチ、アレルギー

*1年（卒後3年）目：当院で研修、2年（卒後4年）目：地域、3年（卒後5年）目：当院で研修

【連携施設群】

症例の補完を目的とし、市内外、総合病院、単科病院、小規模病院と連携しています。

基幹施設：姫路赤十字病院

	総合病院	単科病院、小規模病院
姫路市内	姫路医療センター 姫路聖マリア病院 製鉄記念広畑病院 ツカザキ病院	県立姫路循環器病センター 姫路中央病院 井野病院 綱島会 厚生病院
兵庫県内	神戸赤十字病院	
岡山県	岡山大学病院 倉敷中央病院	
大阪府		国立循環器病センター

基幹施設：姫路赤十字病院 概要

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 姫路赤十字病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があります。 ・ ハラスメント委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、月～土曜日（8時30分～19時）、火・金曜日（終日）利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は24名在籍しています。 ・ 基幹施設内に臨床研修センターと内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理、併せて設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2017年度実績12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPCを定期的に行う（2017年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、姫路市救急医療合同カンファレンス、姫路循環器談話会、姫路呼吸器研究会、姫路消化器病研究会；2017年度実績30回）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 当プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも9分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上）について研修できます。 ・ 研修に必要な剖検（2016年度実績10体、2015年度実績12体、2014年度実績11体）を行っています。
4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・ 医中誌、PubMed、Cochrane Library、DynaMed、UpToDate、今日の診療など文献検索、データベース、医療情報に加え、ジャーナル（和雑誌108誌、洋雑誌81誌購読）を取り揃えています。 ・ UpToDate anywhereを自宅PCやmobile機器で、いつでも、どこでも、何時間でも利用できます。（但し、通信費用は自己負担です） ・ 倫理委員会を設置し、定期的に行う（2017年度実績12回）しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に行う自主研究・受託研究審査会を開催（2017年度6回）しています。 ・ 日本内科学会総会や地方会で積極的に発表しています（2017年度9演題）。 ・ 日本赤十字社 学術総会に積極的に発表しています（2017年度実績2演題）。 ・ subspecialty学会 講演会に積極的に発表しています（2017年度18演題）。
指導責任者	<p>奥新浩晃</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>姫路赤十字病院は、兵庫県はりま姫路医療圏の中心的な急性期病院であり、消化器、循環器、肝臓、呼吸器、血液、膠原病、腎臓、糖尿病、救急診療を積極的に展開しています。</p> <p>当プログラムの連携施設群として、上記領域の専門診療並びに内科救急疾患診療を研修することにより、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を育成することを目指しています。</p> <p>姫路赤十字病院では、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包</p>

	括する全人的医療を実践できる内科専門医となれるように、しっかり指導します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 24名 日本内科学会総合内科専門医 15名 日本消化器病学会消化器専門医 9名 日本循環器学会循環器専門医 4名 日本糖尿病学会専門医 1名 (非常勤専門医延べ4名) 日本腎臓学会腎臓専門医 2名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1名 日本血液学会血液専門医 1名 日本アレルギー学会専門医(内科) 1名 日本リウマチ学会専門医 2名
外来・入院患者数	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 内科系外来患者 291名(1日平均) 内科系入院患者 171名(1日平均)
経験できる疾患群	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群、200疾患の症例を幅広く経験することができます。
経験できる 技術・技能	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病病・病診連携なども経験できます。
認定・指定	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院 ・ 地域医療支援病院 ・ 地域がん診療連携拠点病院 ・ 災害拠点病院 ・ 日本医療機能評価機構認定病院 ・ ゲノム医療連携病院(中核病院:岡山大学病院) ・ 各学会認定(内科関連) 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本放射線腫瘍学会認定協力施設 日本インターベンショナルラジオロジー学会(日本IVR学会)専門医修練認定施設 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本心血管インターベンショナル治療学会認定研修関連施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 など

専攻医募集定員数 : 6名

領域別診療実績

2014 年実績	入院患者実数（人 / 年）
総合領域	116
消化器領域	1105
循環器領域	481
内分泌領域	6
代謝領域	66
腎臓内領域	222
呼吸器療領域	201
血液領域	609
アレルギー領域	20
膠原病領域	38
感染症領域	50
救急領域	667

研修計画

別表 「姫路赤十字病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」 参照

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群、200 症例以上経験することを目標とします。



①内科標準研修タイプ：特定臓器、診療科に偏らず、満遍なく、内科全般を研修する

○専門研修（専攻医）1年：

- ・ 特定臓器・診療科に偏らず、満遍なく、7領域をローテーションします。
救急領域は、各領域研修中の救急疾患診療に加えて、平日の午前/午後、計 10 コマのうち、1~2コマを救急担当として受け持ちます。
- ・ 70疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、60 症例以上を経験し、日本内科学会 J-OSLER に登録します。
- ・ 病歴要約を 5 症例以上記載して、日本内科学会 J-OSLER に登録します。

○専門研修（専攻医）2年：

- ・ 連携施設での研修：連携施設 12 施設から、1 施設に 3 ないし 6 ヶ月間を目安に選定します。
- ・ 70 疾患群のうち、通算で 45 疾患群、120 症例以上の経験をし、日本内科学会 J-OSLER に登録します。
- ・ 病歴要約を 29 症例すべて記載して日本内科学会 J-OSLER への登録を終了します。

○専門研修（専攻医）3年：

- ・ 全 70 疾患群、200 症例以上経験することを目標とします。
修了認定には、主担当医として最低 56 疾患群以上、160 症例以上（外来例は 1 割まで含むことができます）を経験し、J-OSLER に登録します。
- ・ 登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます。

* 姫路赤十字病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）としますが、修得が未達成な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域の専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

②サブスペシャリティ重点研修タイプ

○サブスペシャリティの研修に比重を置くタイプ

- ・ サブスペシャリティ研修を前倒しで開始するタイプです。
 - ・ 研修する診療科を絞り、専攻科サブスペシャリティ研修に早くから取り組みます。
 - ・ 専攻科サブスペシャリティ開始時期は、経験症例に応じて、相談の上、決定いたします。
- * 3 年間の専門研修で、60 疾患群 200 症例以上を修得達成できることが条件です。

連携施設群

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。姫路赤十字病院内科専門研修施設群は兵庫県中播磨医療圏、兵庫県、岡山県、大阪府内の医療機関から構成されています。

姫路赤十字病院は、兵庫県はりま姫路医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病病・病診連携の中核病院です（地域医療支援病院）。

一方で、地域に根ざした第一線の病院でもあり、コモディジェーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次機能病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、姫路赤十字病院内科研修を補完することを目的に、あるいは、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、専門病院である兵庫県立姫路循環器病センター、地域基幹病院である姫路医療センター、姫路聖マリア病院、製鐵記念広畑病院、ツカザキ病院や地域密着型病院である姫路中央病院、井野病院、厚生病院、及び、近隣医療圏にある高次機能病院である神戸赤十字病院、倉敷中央病院、岡山大学病院、国立循環器病センターで構成しています。

専門病院では、高度な急性期医療、専門的な内科診療（糖尿病、神経内科）など、姫路赤十字病院では研修経験が十分でない領域や希少疾患を中心とした診療を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、姫路赤十字病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験や姫路赤十字病院研修を補完できる領域についてより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。地域密着型病院では、神経疾患・代謝疾患を中心とした専門的医療、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療を研修します。

当プログラムでは、姫路赤十字病院内での研修を補完し、さらに発展させることを目的に、研修2年目（卒後4年目）1年間で上記連携施設にて研修を深めます。特に、循環器系（倉敷中央病院、国立循環器病センター、兵庫県立姫路循環器病センター）、呼吸器系（姫路医療センター、神戸赤十字病院、他）、神経系（姫路中央病院、兵庫県立姫路循環器病センター、国立循環器病センター他）、糖・代謝系（兵庫県立姫路循環器病センター、倉敷中央病院、他）、内分泌系（倉敷中央病院、他）、救急系（神戸赤十字病院、倉敷中央病院、他）、在宅医療（井野病院、厚生病院）、全般的な高次機能（岡山大学病院）など、それぞれの連携施設の強みを活かした領域研修を行います。施設選定については、内科専攻医のご希望に沿える様に連携施設合同会議にて研修領域並びに研修施設を調整します。

研修モデル

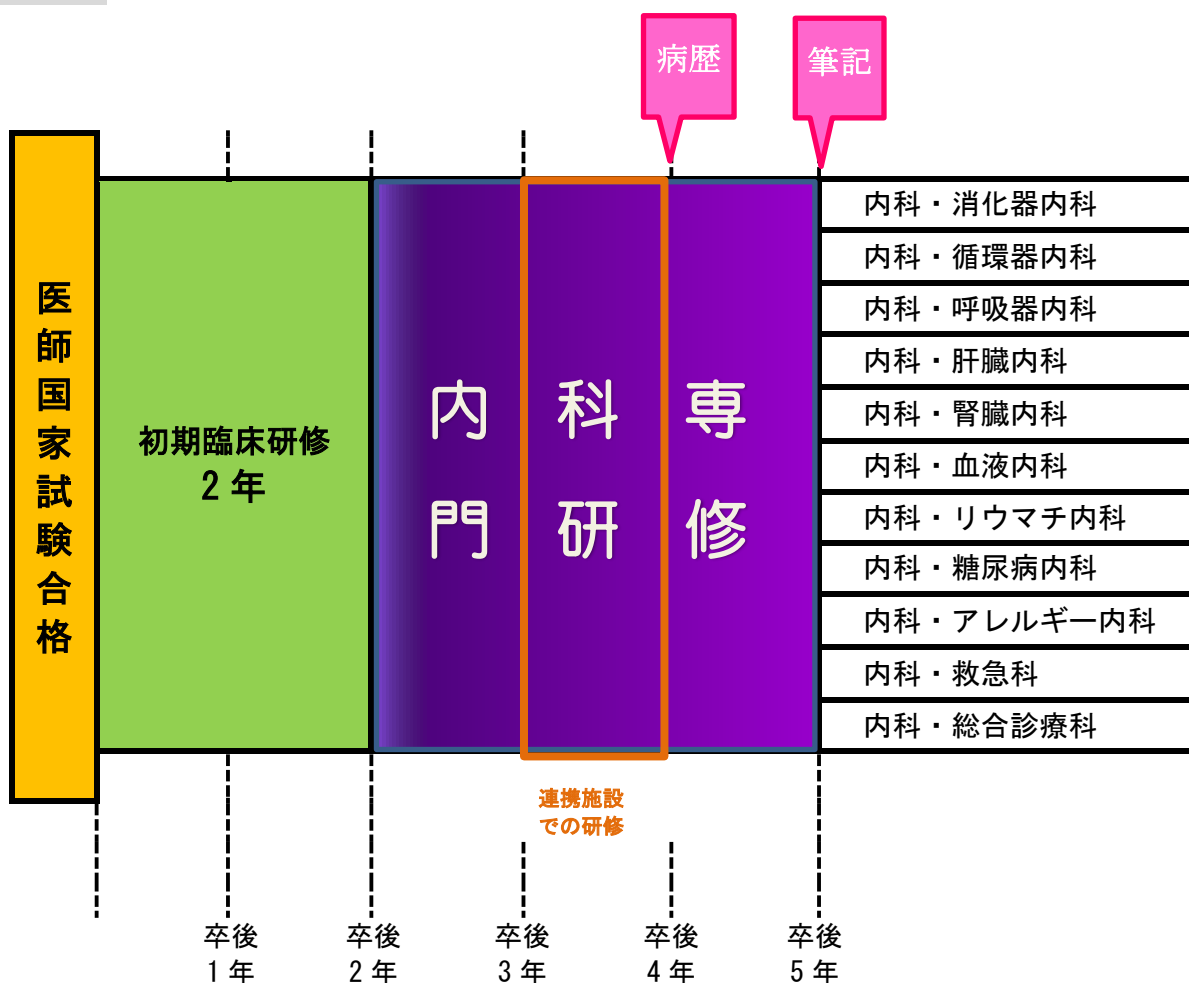


図1。姫路赤十字病院内科専門研修プログラム（概念図）

内科標準研修タイプ：ローテーションモデル（標準）

1年目

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
領域	消化器			循環器		代謝・腎臓・膠原病			呼吸器		血液	

研修モデル：2～3ヶ月単位で7領域をローテーションします。

感染症、救急や緩和ケアについても研修できるよう調整します。

ローテーションスケジュールは、研修開始時に調整します。

2年目

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
連携	連携 1			連携 2		連携 3			連携 4			

連携施設での内科専門研修します。

主に、神経、内分泌、代謝、呼吸器、救急などの領域について、当院での研修を補完する目的や地域医療研修を深める目的に、連携施設で研修します。1施設3ヶ月又は6ヶ月の期間で、研修1年目秋に、専攻医の希望に沿えるように、連携施設合同会議にて研修領域並びに研修施設を調整します。

3年目

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
選択	選択 1			選択 2		Subspecialty 研修も可能						

原則、姫路赤十字病院内でさらに進んだ内科専門研修を行います。未修了領域、疾患についての研修についても調整しますが、上半期6ヶ月間は、3ヶ月を1単位として、1～2領域を選択して研修を深めます。下半期6ヶ月間は、研修到達度によってはサブスペシャリティ研修も可能です。

当タイプでは、3年次を内科専門研修の総合実践として捉えており、内科領域全般の疾患を受け持ちます。勿論、将来専攻するサブスペシャリティ領域とは異なる領域の疾患、複雑疾患、救急疾患、化学療法や緩和ケアなどを積極的に受け持つことが望まれます。

サブスペシャリティ重点研修タイプ：

				○年△月以降								
領域	ローテーション			サブスペシャリティ研修								

サブスペシャリティ研修を開始する時期、それまでの研修内容については、個別に相談します。

2年目

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
連携	連携 1			連携 2		連携 3			連携 4			

連携施設での内科専門研修します。

主に、神経、内分泌、代謝、呼吸器、救急などの領域について、当院での研修を補完する目的や地域医療研修を深める目的に、連携施設で研修します。また、サブスペシャリティについて、より深い研

修をすることも可能です。1施設3ヶ月又は6ヶ月の期間で、研修1年目秋に、専攻医の希望に沿えるように、連携施設合同会議にて研修領域並びに研修施設を調整します。

姫路赤十字病院内科専門研修の強み

* 内科指導医 24 名（総合内科専門医 15 名）が在籍し、消化器、循環器、内分泌（非常勤）、糖代謝、腎臓、呼吸器、血液、リウマチ、アレルギー領域にサブスペシャルティ専門医が各領域を担当・指導します。

* 当院内科の強みは、消化器（消化管、肝臓、胆膵）、血液、腎臓、リウマチ領域で、はりま姫路診療圏で数少ない専門医が在籍していることと豊富な診療実績です。

* 2018 年 4 月には糖尿病専門医が常勤として着任し、精力的に活動しています

* 2015 年 8 月には、呼吸器内科を新規開設し、着実に診療実績が増加しています。

* 2014 年 4 月に心臓血管外科、2016 年 4 月には呼吸器外科が開設され、両外科を有するはりま姫路医療圏内唯一の施設で、循環器疾患、呼吸器疾患症例が増加しています。

* 内分泌領域には、非常勤内分泌専門医が週 1 日外来診療を担当しています。外来開設 3 年目となり、はりま姫路医療圏では専門医が少なく、症例は増加しています。

* 神経内科領域は、連携施設での研修をプログラムしていますが、当院では主に脳神経外科が担当していて、特に救急疾患、脳血管疾患、脳腫瘍、変性疾患などにつきましては院内研修でも十分に経験できます（2014 年度実績：脳血管 273 例、脱髄・免疫 22 例、末梢 25 例、変性 19、認知 26 例、機能 160 例、自律神経・脊髄 98 例、代謝性 5 例）。

* 当院は、地域がん診療連携拠点病院に指定されていて、がん治療に関しましては、手術療法を始め、化学療法、放射線治療、ペインクリニック、緩和ケア内科の各専門医がそれぞれ在籍し、あらゆるニーズに対応できます。

* 当院は、岡山大学病院をゲノム医療中核病院の連携施設に認定されました。新たながん診療が加わり、幅広い研修ができます。

* 救急領域は、救急科としての専門科はありませんが、地域中核総合病院であり、各専門診療科による幅広く、深い救急診療を経験できます。特に当院には救急発症の多い消化器、呼吸器、循環器、腎臓領域に専門医が在籍することにより、今後救急診療ニーズが高まります。加えて、連携施設での高次救急研修を経験して、さらに幅広い内科救急専門研修が出来ます。

* 剖検体数は 2017 年度 10 体、2016 年度 12 体、2015 年度 12 体です。

内科専門研修とサブスペシャルティ専門研修の連動研修（並行研修）の一例

医師経験	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
標準						内科専門 医試験			
タイプ									サブ専門 医試験

特定の診療科に偏らず、満遍なく内科研修を行います。専攻サブスペシャルティ領域を内科専門研修中に並行して研修することもできます。3年間で内科専門研修を修了することが必須要件で、この期間中にサブ

ペシャルティー研修を含んだ内容を研修します

①サブスペシャルティー重点プログラム

サブスペシャルティーの研修に比重を置く期間を設ける（内科専門
研修期間内にサブ研修合計 1 年型）

医師経 験	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年
サブ 重点 1								サブ専門 医試験	

②サブスペシャルティー重点プログラム 2

サブスペシャルティーの研修に比重を置く期間を設ける（内科専門
研修期間内にサブ研修合計 2 年型）

医師経 験	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年
サブ 重点 2								サブ専門 医試験	

* 初期研修中にも、内科専門研修を含んだ内容を研修します

** 内科専門研修医は、内科専門研修中のある時点で、プログラム統括責任者、サブスペシャルティー責任者と協議の上、標準タイプ、サブ重点タイプを選択できます。

姫路赤十字病院内科専門研修施設群研修施設

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科剖検数
基幹施設	姫路赤十字病院	560	162	8	24	18	12
	姫路医療センター	430	183	7	17	13	10
	姫路聖マリア病院	360	110	2	5	5	4
	製鐵記念広畑病院	362	60	7	5	2	3
	ツカザキ病院	201	76	4	7	4	2
	姫路循環器病センター	350	165	3	17	13	1
	姫路中央病院	235	45	2	2	1	4
	井野病院	100	70	7	4	2	0
	厚生病院	148	148	1	6	2	0
	神戸赤十字病院	310	128	7	12	8	13
	倉敷中央病院	1161	491	10	48	39	23
	岡山大学病院	805	238	6	65	45	12
	国立循環器病センター	612	370	10	44	18	24
	研修施設合計	5,634	2,246	74	256	170	108

各研修施設の概要（当院平成 30 年 7 月現在、他院は平成 29 年 2 月現在、剖検数：平成 27 年度）

研修可能性を 3 段階（○、△、×）に評価。〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない。〉

	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
姫路赤十字病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	○	○	○	○
姫路医療センター	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○	○	○
姫路聖マリア病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○
製鉄記念広畑病院	○	○	△	×	○	△	△	△	×	×	×	×	○
ツカザキ病院	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○	○	△	○
姫路循環器病センター	△	×	○	×	○	×	×	×	○	×	×	×	○
姫路中央病院	○	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○
井野病院	○	○	△	○	○	○	△	△	○	△	△	△	○
厚生病院	○	○	△	△	○	△	○	×	×	×	×	○	×
神戸赤十字病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	△	△	○	○
岡山大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
倉敷中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国立循環器病センター	×	×	○	△	△	△	×	×	△	×	×	×	×

姫路赤十字病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標

	内容	専攻医 3 年 修了時 カリキュラムに示す 疾患群	専攻医 3 年 修了時 修了要件	専攻医 2 年 修了時 経験目標	専攻医 1 年 修了時 経験目標	※5 病歴要約 提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者）	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	7 以上※1※2	6 以上※1		3※1
	循環器	10	7 以上※2	6 以上		3
	内分泌	4	2 以上※2	2 以上		3※4
	代謝	5	3 以上※2	3 以上		
	腎臓	7	5 以上※2	4 以上		2
	呼吸器	8	6 以上※2	5 以上		3
	血液	3	2 以上※2	2 以上		2
	神経	9	5 以上※2	5 以上		2
	アレルギー	2	1 以上※2	1 以上		1
	膠原病	2	1 以上※2	1 以上		1
	感染症	4	2 以上※2	2 以上		2
救急	4	4※2	4	2		
	外科紹介症例					2
	剖検症例					1
	合計※5	70 疾患群	56 疾患群※2 任意選択含む	45 疾患群 任意選択含む	20 疾患群	
	症例数※5	200 以上 外来最大 20	160 以上 外来最大 16	120 以上	60 以上	29 症例 外来最大 7※3

※ 1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、
「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

※ 2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、
合計 56 疾患群以上の経験とする。

※ 3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。（全て異なる疾患群での提出が必要）

※ 4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2 例 + 「代謝」1 例、「内分泌」1 例 + 「代謝」2 例

※ 5 初期臨床研修時の症例は、例外的に当内科専門プログラム委員会が認める内容に限り、その
登録が認められる。